

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 ヤマカまなびパーク4F TEL 0572- 23 - 3455 FAX 0572- 26 - 8813

指導日誌より

= 多治見地区 =

下校中の高校生にあいさつをして、気を付けて帰るように声をかけた。(12/8 精華 2)

下校中の高校生とあいさつや声かけが多くて、巡回する足取りも軽く感じました。(12/8 南姫 9)

交流センターやパローで出会った児童や根本駅で出会った高校生たちに声かけする。外を出歩く子どもの姿は全くなし。(12/16 根本 10)

小学生、中学生、高校生、出会う方々ともにさわやかなあいさつがあり、寒さとは反対にあたたかさを感じます。(12/17 養正 7)

駅周辺を巡回した。寒い中、歳末募金の高校生が元気に声をかけていた。(12/17 脇之島 12)

歩道でキックボードに乗っていた小学生を注意。下校途中の中学生が喧嘩をしていたので仲裁した。(12/18 滝呂 8)

今回も二手に分かれて巡回しました。児童センターの子どもたちは外で元気よく遊んでいました。(12/26 北栄 1)

= 土岐地区 =

・中学校が三者懇談のため下校が早く、小学校の下校とほぼ同じ時間帯になり、多くの子どもたちに声かけが出来た。(12/1 濃南 4)

外では子どもたちの姿を見かけなかったが、宝島土岐店で2人の中学生と出会い声をかけた。(12/2 泉 8)

駅前で 2 台のバイクが高校生に声をかけて走り去った。やや音が大きかったが問題ない程度か？(12/9 土岐津 7)

コンビニで買い物をして、近くで遊んでいる小学生男女 8 人に声かけ。ゴミを持ち帰るように指導した。(12/10 妻木 3)

土岐市駅前の歩道上で 2 台の自転車を止め、2 名が話をしていた。通勤で大勢の人が通るので注意をしたらすぐに移動しました。(12/16 特 A)

・寒さが厳しいためか公園やコンビニに青少年の姿は見られなかった。(12/18 下石 2)

・パロー土岐店(肥田)の西側駐車場を巡回した。若者の姿は無かったが、ゴミの散乱が目立ち、人が

◆◆◆ 11月 声かけ活動の結果 ◆◆◆

| | 多治見地区 | 瑞浪地区 | 土岐地区 | 合計 |
|--------|-------|------|------|-----|
| 指導人数 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 声かけ人数 | 489 | 112 | 188 | 789 |
| 指導員参加者 | 69 | 32 | 29 | 130 |

来ている様子は伺うことができた。(12/21 肥田 G)

= 瑞浪地区 =

夜は一段と寒くほとんど人はいない。バロー裏 19 号地下道は飲み食いのゴミが多かった。(12/4 瑞浪 A)

釜戸中生徒による学校付近の「清掃活動」が行なわれていた。通学途中で清掃してくる生徒もいて、とてもうれしく思った。(12/8 釜戸 G)

・ 中学の校門であいさつ運動。登校の遅い生徒が何人かいますが、それが彼らの生活のリズムかとも思います。あいさつは返してくれますが中々声が大きくなりません。生活が乱れている様子はありません。(12/9 陶 E)

今年も日吉中学校の生徒たちがパンジーのプランターをたくさん作り、公共施設や街角に設置してくれた。子どもたちの心に感謝したい。(12/9 日吉 I)

・ 飛び出しをする自転車 2人乗りの若者がいたため注意をと思ったが、信号を無視して行ってしまった。危険な乗り方であった。(12/15 土岐 C)

駅の駐輪場から出てくる自転車はどれもしっかりとライトが灯っていた。ベンチに座ってケータイを見ている若者数名に声をかけると小さいけれどちゃんと返事が返ってきて、みんな普通にちゃんと歩いて安心した。(12/16 明世 H)

・ 特に変わりなく寒い日のため人も少なかった。(12/18 瑞浪 B)

・ 冷たい小雨混じりの宵の口、高校生 1人を見かけ

ただけでした。今年も概ね平穏に推移したことに改めてほっとしています。(12/21 稲津 F)

い かん い かん 如何せん、如何せん

し と こ と

子曰。不曰如之何。如之何者。吾末如之何也已矣。

子曰く、之を如何せん、之を如何せんと言わざる者は、吾之を如何ともすることなきのみ。

論語(衛霊公 15-15)

通訳は次のとおりです。

「孔子が言われた。どうしたらいいだろう、どうしたらいいだろう、と、自分なりに思案に思案を重ねて苦慮しない者に対しては、私もまた、どうすることもできないのだ。」

師が一方的に教えを授けると、弟子の身に付きません。何事もそうでしょうが、当人に学ぶ意欲が無ければ、どんなに教えても学び取ることは出来ません。本人が考えあぐねて壁にぶち当たった状態になって、初めて教えが身に付くのです。翻^{ひるがえ}って、上の言葉のように自分で思案しない者はどうすることもできないと孔子は言われます。

私は何かに迷った時、この言葉を呪文のように唱えています。そうすると少しは気分が落ち着いてくるのです。

< センターから >

第 2 回運営協議会を開催しました

1 月 6 日(水)、3 市の教育長をはじめ運営委員の皆様にご出席いただき、第 2 回運営協議会を開催しました。多治見警察署生活安全課長の栗本様から平成 27 年 11 月までの「少年非行の概況」についてご報告いただきました。それによると、不良行為少年の補導状況は前年より若干減ってはいるものの、依然として多いのは「喫煙」と「深夜はいかい」ということです。深夜はいかいで小学生が 1 人補導されたのは気になりますが、中学生、高校生と、年齢とともに増えています。また、委員の方からは、「屋外での非行は減っているが、子どもたちがかかえる問題は人間関係や教育相談的な内容が増えている。外での問題より家庭内に問題のある場合も多い。経済的な問題、DV 等の問題など、かかえる問題は多様で、その対応には専門的な知識も必要になっている。」とのお話もありました。少年センターへは、3 市の中高生全員に配る、相談業務を PR する「カレンダーカード」の文面について、『もっと具体的に対応する相談内容等が記載されていれば、相談者も電話し易いのではないか?』との貴重なご意見もいただきました。今後の活動に活かしていきます。